

近代の文化財(歴史資料部門)の 保存・活用の現状と課題(案)

1 保護の必要性

平成8年 近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議 報告
(美術・歴史資料分科会)

近代の歴史資料等の多くは社会変動や生活様式の変化, 技術革新, 経済の効率化等によって, 散逸や滅失の危機に当面する。

我が国の歴史と文化への理解を深める上で重要な遺産となるべきものが多数含まれ, 後世に伝えていくことが必要である。

保護の対象とする年代・範囲は次のとおりとする。

○年代 およそペリー来航から第二次大戦終結時まで

○範囲 政治, 経済, 社会, 文化, 人物という, 従来の分類に「科学技術」を加える

2 調査事業の実績

分野	名称	実施形態	対象	実績
美工	史料調査事業	補助事業 (地公体事業)	個別	旧要項は昭和47年から 現要項は平成7年から
	近代歴史資料緊急調査事業	国・科博	全国	平成9・10年度 (科学技術資料)
※上記以外の詳細調査は、個別に実施する。				
(参考)				
建造物	近代化遺産(建造物等)総合	補助事業 (府県事業)	全国	平成2年度～28年度 単費調査1県を含め完了
	近代和風建築総合	〃	全国	平成4年度～ 未着手府県1
	近現代建造物緊急重点調査	国直営	全国	平成28年度～
記念物	近代遺跡	国直営 国直営	全国 全国	平成19年(映画フィルム) 平成8年～ 詳細調査770件
	近代の庭園・公園等	国直営	全国	平成20年～24年

○建造物が先行し、記念物が後を追うかたちで全国調査が進展。

○美術工芸品は、科学技術資料を中心に把握を進めるも、網羅的調査は量的に難しい。

3 指定実績

国宝・重要文化財(歴史資料の部・近代, 自平成9年)

分野	指定件数	年代	備考
美工	63件	安政6年～昭和22年	下限, 地方行政文書一括
	21件(機械類)	安政6年～昭和5年	下限「氷川丸」「日本丸」

(参考)

建造物	337件, 947棟 2件, 4棟国宝	明治元年～昭和34年	下限は「国立西洋美術館本館」
記念物	30件(史跡)	明治元年～昭和20年	下限は「長崎原爆遺跡」
	45件(名勝)	明治元年～昭和29年	下限は「平和記念公園」



京都府行政文書 15, 407点
明治～昭和22年
京都府・府立京都学・歴彩館保管

○指定件数も調査の進展を反映し, 建造物が先行する。

3 指定実績

国宝・重要文化財(歴史資料の部・近代, 自平成9年)

分野	指定件数	年代	備考
美工	63件	安政6年～昭和22年	下限, 地方行政文書一括等
	21件(機械類)	安政6年～昭和5年	下限「氷川丸」「日本丸」

63件の内訳

人物関係資料	6件
文書・記録類	18件
写真・映画フィルム	17件
機械類	21件
その他(メートル原器並度量衡関係資料)	1件



東京府・東京市行政文書 33, 807点
明治～昭和18年 (東京都)



1号機関車 1両
19世紀・英国 (埼玉・JR東日本)



エンボッシング・モールス信号機
19世紀・米(東京・郵政博物館)



江川家関係写真 461点
江戸～明治 (静岡・公財江川文庫)



氷川丸 1艘
昭和5年 (神奈川・日本郵船(株))

4 近代の文化財の特徴

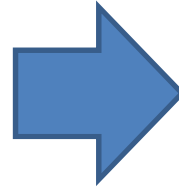
時代背景

①社会・経済活動の活発化

②人々の活動領域の拡大

③科学の発展, 工業の進展

④西洋の諸科学の輸入・学習



文化財の特徴

①文化財の分野の広がり

②多量性, 大規模性, 複雑性

③品質の多様性, 複雑性

④利用・使用に提供される

⑤地方公共団体や企業所有文化財の比率が高まる



京都府行政文書15, 407点
明治～昭和22年
京都府立京都学・歴彩館



江川家関係写真461点
江戸～明治
静岡・(公財)江川文庫



氷川丸 鋼製貨客船,
全長163m, 幅20m,
神奈川・日本郵船(株)

5 近代の文化財の特徴と現状・課題

文化財の特徴

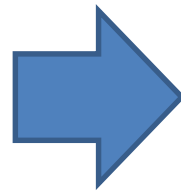
①文化財の分野の広がり

②多量性, 大規模性, 複雑性

③品質の多様性, 複雑性

④利用・使用に提供される

⑤地方公共団体や企業所有文化財の比率が高まる



調査・保存・活用上の現状・課題

①文化財認識の未定着

②調査予算, 人材の不足

③工業製品(保存性の低い材料等)の出現

④修理方法, 技術論の未定性

⑤保存活用計画の有効性

⑥修理設計者, 技術者の養成

⑦修理予算の高額化と予算確保, 負担軽減策の検討

⑧博物館機能の不足

⑨保存・活用に関する研究機関の充実

5 近代の文化財の特徴と現状・課題

調査・保存・活用上の課題の具体 1

③工業製品(保存性の低い材料等)の出現

紙の酸性化, 没食子インクの劣化等



パルプ紙の酸性劣化による破損



インクによる料紙の脱落

④修理方法, 技術論の未定性

維持管理の重要性(管理方法の違い)

酸性化など化学変化による劣化速度が速いものが多量に存在する



破損が進行する前に日常的・継続的に維持管理(予防的措置等)にて破損を抑制することが重要(解体修理まで待てない)



文化財保護法に定める修理に該当する行為と維持管理行為との区分を明確にする必要性が生じる。

修理方法・修理材料について研究の必要性

従来, 一般には画一的な化学的脱酸処置を中心とする欧米の修理方法にて実施されてきたが, 不十分な点も存在



料紙の品質の独自性, 多様性や劣化状況を反映し, 修理方法の改良を模索⁸

5 近代の文化財の特徴と現状・課題

調査・保存・活用上の課題の具体2

③工業製品(保存性の低い材料等)の出現

④修理方法, 技術論の未定性

鉄鋼



外板塗装の剥離と鋼鉄の錆の進行
重文・日本丸(神奈川)



〔参考〕 塗装の剥離, 錆による腐朽
重文・揖斐川橋梁(岐阜)

維持管理の重要性(管理方法の違い)

塗装がなければ, 錆が生成, 進行する



塗装を維持する維持管理が極めて重要



適切な維持管理を行ったのちに, 必要な時期に修理を実施



文化財保護法に定める修理に該当する行為と維持管理行為との区分を明確にする必要性が生じる。

文化財類型を超えた品質・構造の共通性と調査・研究機能の充実の必要性

文化財としての修理や維持管理の方法論が定型化, 一般化していない。



方法論の質的向上のために, 修理事例の情報共有, 現在東京文化財研究所が担う調査・研究機能の充実が必要である。

5 近代の文化財の特徴と現状・課題 調査・保存・活用上の課題の具体3

⑤保存活用計画策定の推奨



京都府行政文書 15,407点



氷川丸 全長163m

行政文書など多量性をもつ文化財
船舶など大規模性、複雑性をもつ文化財

所有者が文化財価値の所在や損傷状況につき、一時に全体を把握することが困難



保存・活用には、計画に基づいた全体の方針確認が不可欠

所有者の日常的、自主的な保存・活用の円滑、適切な実施が重要



美術工芸品には、保存活用計画策定の支援策がなく、建造物等に類する内容のものは策定されていない(氷川丸は平成28・29年度で策定中)



保存・活用計画の策定の推奨、支援策の充実が不可欠

6 前近代の文化財との品質・構造・規模の差異に起因する行政課題と近代の文化財保護に求められる方策（小結）

目標

①調査, 指定の促進

②適切な保存・活用の推進

課題

①文化財認識の未定着

②調査予算, 人材の不足

③工業製品の出現(保存性低下)

④修理方法, 技術論の未定性

⑤保存活用計画策定有効性の検討

⑥修理設計者, 技術者の養成

⑦修理予算の高額化と予算確保, 負担軽減策の検討

⑧博物館機能の不足

⑨保存・活用に関する研究機関の充実

方策

①文化財行政の充実, 類型に共通する課題への対応(含保存活用計画)

②各分野の文化財を対象とする研究者, 学芸員, 修理技術者等の育成, 拡充と組織, 個人のネットワーク化

③科学技術分野の博物館機能の拡充

④調査, 研究機能の拡充

⑤修理, 維持管理事業実施の支援, 多額の文化財の修理・維持管理経費の負担軽減策の検討

参考 海外の産業技術系博物館の一齣



修理機能の例: 博物館内の修理施設で機関車を解体修理中。公開区画であり、観覧者は自由に見学できる。
国立鉄道博物館(イギリス・ヨーク)
※大英博もこちらも入館料は無料。



収蔵機能の例: 工場跡地を利用した巨大な収蔵施設及び修理施設。工業技術資料を膨大に収集する。写真は航空機のタイヤ。
国立技術博物館(ドイツ・ベルリン)